婦人と新社會

山田わか主筆

十月號

毎月一回一日發行　第二拾號　大正十年十月一日發行

婦人と新社會

十月號

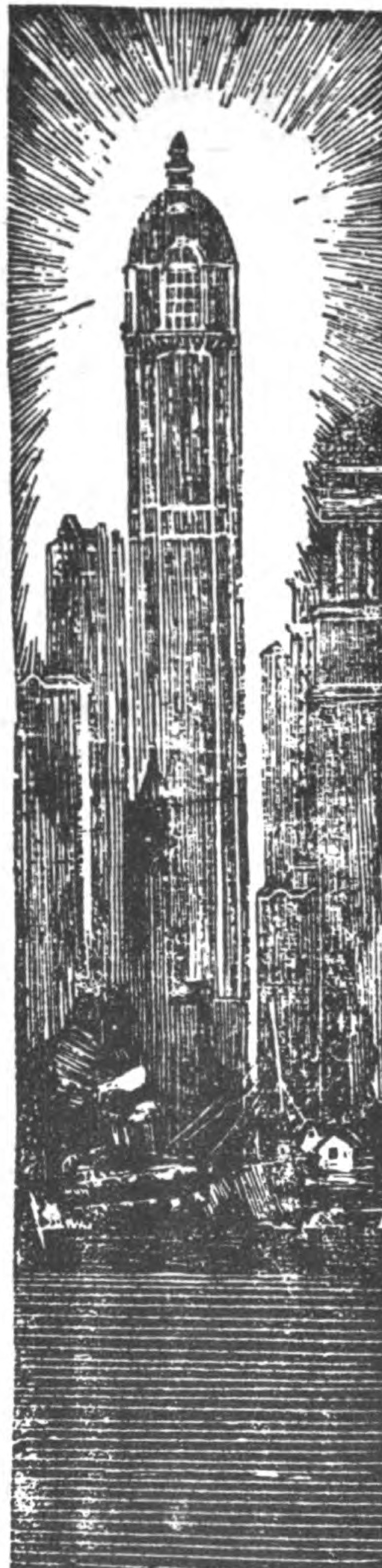
歐洲諸國は今日迄優勝劣敗、則ち、適者生存の原則から脱することが出來ずにゐました。たとへ、相互扶助の精神が內部に潜んで居るとは云へ、大勢は矢張り適者生存の原則に支配されてゐたのです。周圍に生存してゐる者を食つても食つても食ひ飽きないアミーバーと同じ食慾を持つて、生存競爭にうき身をやつし、そして、强い者、敏捷な者、狡猾な者が優秀な位置を占め、勝利の生活を暫く享樂するのでありました。けれども、後から又より强い者、より狡猾な者が現れゝば前者は倒される、さうして、立てゝは倒し、倒しては立てゝ來たのが歐洲諸國の歷史であります。適者生存の原則によつて、歐洲諸國民は折り〳〵元首の更迭に遭遇したのでありました。或る人は此の一勝一敗のうちに進步が生れたと云ひます。併し本當の進步は此の生物界を支配してゐる優勝劣敗を超越した人道主義、則ち價値の創造よりも、價値の保存によつて生れるものだと私は思ひます。つまり、適者生存を人道化した度每に進步はあつたと私は信ずるのであります。

我が皇室は其の最初より前述の原則に超越した人道化されたものでありました。如何なる價値の創造者が後から現れても、價値の保存者なる皇室を犯すようなことは決してありませんでした。

我が國が其の物質文明に於て、又、富の力に於て、歐洲の列强に後るゝ處があるとは云へ、太古よりの此の人道主義は世界に誇るべきものであります。

我が皇室の萬世一系は其の燦たる光りを世界に輝し得るものであります。

東宮殿下の御歸朝に際し、御祝詞に代へて一言申ました。



人類の希望と婦人

一

人間の動物性が道理、道德、及び、宗教の制裁を受ければ受けたゞけづゝ、其れだけ人間は野蠻狀態を離れて文明的になつたのであります。

人間は野蠻狀態から隔れば隔る程其の三つの力、則ち、社會制裁、共同制裁、及び宗教の權威に從ひます。そして、それ等の制裁、及び、權威に從つたゞけづゝ、其れだけ進步向上して來ました。實に、家庭及び國家は、それ等の制裁及び權威の力の上

に建設されたものであります。ですから如何なる時代、如何なる國に於ても、其れ等の制度の發達を見れば可なり正確に其の文明の度が計られるのであります。

國家は大體に於て男性的であつて外的の力の行はれる範圍、いはゞ相撲場のようなものであるに反し、家庭は女性的の力の働く處でありますが、此の男性的及び女性的の發達を補充し、そして、力と愛とを信仰に結び付けようとするものが宗教でありま す。つまり、力と愛を唯物主義から脱せしめて、高尚な文明的な型にしようとするものが宗教であります。

人間が野蠻狀態から脱して進歩の過程に入るに附いては、先づ第一に共同生活の發達が必要でありました。共同生活が先づ發達して、そして、其の後に來る一層優美な女性の仕事の準備が爲されねばなりませんでした。そして、今や、不完全ながらも其の時期に到達したのであります。つまり、男が今日迄に造つて置いたものゝ上に、女はより高尚なより優美な文明を建設しなければならぬ時に私共は今遭遇して居るのであります。

二

外的に働く男の力は家長政治を造り、種族政治に變り、遂に帝王の治世に迄進み一足とびに專政主義に達しました。けれども、又、其專政主義を幾分矯めるために或る種類の人民の權利と云ふものが其れにつけ加へられました。或は全然民主々義を採用し、實驗した國もありましたけれども、今日迄の經驗によると、ぢきに又王政に後もどりするか、或ひは、かたちに於ては民主々義の政治でも、其の本質に於ては矢張り王政に歸つて居るのでありました。けれども、人は一般に民主々義的國家を渴望し、完全な自治制を持ち得る時を夢みつゝあるのであります。

今日迄の進歩の此の骨の折れに嶮岨な道を歩みながらも人は常に一つの希望を持つてゐました。其の希望は丁度馥郁として薫りをあげて道ばたに咲いてゐる白百合のやうなものでした。昔から今日迄、人間は此の花によつて麗しい空と暖かい氣候と、そして、より自由なより完全な社會が造られることを信じて居ました。豫言者イザヤは其の花をベテレヘムに於て見ました。又、佛蘭西革命の騷擾のうちにも、其の花は血

に染まつて光つて居ました。其の時の「自由、平等、同胞主義」と云ふ叫びは昔の羊飼が夜毎に聞いた「此の世の上に平和あれ、人には幸あれ。」と云ふ歌のひゞきとは違つたひゞきではありますが、併し、其のどちらもが同じように希望から發せられたものであります。そして、これを宗教的に云ふならば「見よ、神は汝等の父である。汝等は皆兄弟である。」と云ふのであつて、これを又今の言葉で云ふならば「國際聯盟の完成」といふ言葉であります。

昔の人間の希望も今の人間の希望も皆同じであります。そして、今は早速に其の希望を實現しようとしていろ〱の運動が始められました。そして、又、科學は其の偉大なる經驗をもつて著しい貢獻をしました。人間界、及び、自然界の事柄に附いて以前には全く知られてゐなかつたことが明かになり、其の結果は人間の觀察が廣くなり同情が深くなりました。

三

科學者哲學者其の外自然法を論ずる人達は昔とは違つて今は一般人の中に散在して

ゐますし、そして、其の人達は多くの場合非常に貧乏でもなく、各階級の中間に立つてゐますから上流階級をも下流階級をもはつきりと見ることが出來ます。そして、一方には世界の富の正當なる分け前を受けることが出來なかつた結果の貧乏と無學と不幸とのんだくれの增長を見、一方には富者の懶惰と奢侈と放縱とを見てゐます。そして、此の兩極端は共に人間進步の妨げであり、人類の使命を果すに大障碍であることを宣言してゐます。

社會に此の大きな不公平があり、そして、貧富の其の兩極端が共に有害であることを宗敎家と同じように學者も認めて居て、そして、其の不公平の根も葉も破壞しなければならないことを主張するのでありますが、併し現に苦痛を嘗めつゝある貧乏階級にとつては彼等を救濟しようとする計畫は餘りにのろまであるので、今はもう其の貧乏階級はだまつて救はれるのを待つては居なくなりました。そして、彼等の主張は、「一部の人間が無理な勞働を課せられないように凡ての人間がいくらかづゝ働くべきである。節制と公平な取引きは貧富に拘はらず行ふべきだ。各人が殊に有產階級が節

制と節儉と公平な取引を行ふならば貧乏問題の殆んど凡ては解決出來る」と云ふのであります。

もう一つの今日迄の大きな誤謬は人道學者や經濟學者の慈善に關する考へでありました。彼等は社會的平等を計る一つの手段として富者は貧乏人に餘つたものを與へねばならぬ義務があると云つてゐました。施しをすることは凡ての宗教によつて命令されてゐる大德の一つであると云はれてゐました。そして、これは基督教によつて最も強く高唱されてゐました。基督が「慈善は與へられるものよりも與へるものが幸福である。」と云つたことによつて如何に其れが高唱されてゐたかゞ分ります。そして、これが今日の慈善會及び其の外凡ての貧民を救濟する團體を造つたものでありまして、そして、それ等は皆異口同音に、施しをすることが貧民や罪惡を救濟する唯一の手段であると云つて「貧乏人に與へたゞけ、それだけ神に借したのである。」と云ふ格言を信じてゐます。

處で、現代科學の鋭い觀察と研究は慈善の無能無用を證明しました。つまり、貧乏

人に與へねばならぬものは金よりもより善きものであらねばならぬと云ふ時に今は發達したのであります。云ひかへれば、貧乏人が必要とするものは、今日の社會制度を變更も、そして、慈善の必要を感じない狀態に貧乏人が置かれることであります。そして一般國民に物質上の餘裕が出來た時に、此の時に女性の力が始めて有效に文明のために働くことが出來るのであります。

四

七百年以前ジョン王より大權（マグナカルタ）を得た英國人の子孫なる米國人が革命によつて本國政府から獨立を得て以來既に百有餘年を經過しました。其の時に佛蘭西は英國に反對して立つた米國植民の獨立戰爭を援助しました。天命と云ふものは實に妙なもので、個人に於けると同じように國民にも亦現れます。と云ふのは歐洲の凡ての政府のうちで佛蘭西程自由の種の蒔かれるのを恐れてゐた政府は無かつたのです。處が、其の佛蘭西が米國民の自由要求の戰爭を援けたのです。そして、自由の火の子を本國へ迎へたのです。其れまで佛蘭西は封建的な施政を施かれてゐたので、國民の生活は死んだ

生活、自由とは無政府の自由であつて、希望の花は全く萎れてしまつてゐたのです。其處へ亞米利加國民の自由の火の子が飛んで行つたのです。いはば彈藥の庭へ火　子が飛び込んで行つたのと同じことだつたのです。そして、佛蘭西國民が政界に投げつけた爆裂彈は佛蘭西許りにでなく歐洲全土に擴がつて行つたのですが、其の時の佛蘭西國民は唯に政府を攻擊したのみならず一切の制度に對して宣戰を布告したのでありました。そして、破壞されたのは國家計りでなく家庭も宗敎も破壞されてしまひました。文明の過程に於て、それ迄に建設された秩序正しい進步的な手段　凡てが破壞されてしまつたのであります。則ち、忠義心とか、目上に對する尊敬心とか、義務とか云ふものは無くなつて、唯、權利觀念許りが殘るようになつたのであります。

ですから、革命の焔が燃えきつてしまうと同時に社會はまつくらになつたと云ふ狀態であつたのです。人民が政治に參與し得る政府が設定されても最早國民の心を輝かす光りは消えて、人民には家庭もなく宗敎もなく、國家もなく、唯、個人としての人間許りになつたと云ふ狀態になつたのであります。けれども佛蘭西の其の革命は熱狂

的に英國に受け容れられたのでありますが、後に、ウォズウォーズが「革命も若い時には美人だ。ローマンスだ。充分に人を引きつける力がある。だから、法律も習慣もいらない。けれども、其の革命はいつ迄も若くない。其の美も直に衰えるものだ。」と歌つたのは此の時のことであります。

併し、此の革命によつて婦人はしつかりと覺醒し始めました「女權の布告」「女權の擁護」も此の時の產物であります。そして、以來百年間に婦人の道徳觀、女子教育及び、婦人の價値に對する尊敬心は大なる進步を遂げました。處で、此處に私共が記憶しなければならないことは、其れ等の婦人の覺醒は女性としての覺醒ではありませんでした。唯、男子を標準としての人としての覺醒でありました。戀愛に於て結婚に於て、男子の模倣でありますから其れが道德的でも純でもありませんでした。其の動機に於ては眞實であつたに相違ないのですが不幸にして其の動機が間違つてゐたのです。其の戀愛の自由、又は、所謂性的關係の改革からは親としての無責任、又は私生兒問題と云ふような副產物が現はれました。

要するに、今日迄の婦人の覺醒は唯單に男子の仕事、即ち、外的に働く男子の模倣であつて女性としての眞の覺醒ではなかつたのであります。

過去百年間の思想は世界全般に行き渡つて、そして、國によつて違つたかたちになつて現はれ、違つた度の發達を遂げたのでありますが、この二三十年間の電氣力の發達、及び、蒸氣力の大進步が國と國との距離を接近させ、一度四方八方に散つてゐた考へを一つにまとめました。獨逸に發達したもの、英國に發達したもの露國に發達したものが反動し合つて、そして、一ツにならうとしてゐます。けれどもその思想の中心となつて居るものは自己利益主義、則ち、現實的であつて未來を考へる餘裕などはありませんでした。たまたま婦人の覺醒があつても、それが女性としての覺醒でなかつたので、世界は少しも新しくなりませんでした。則ち、相變らずの破壞と建設との追ひかけツこでありました。そして、それが政界及び產業界に於て許りでなく家庭も矢張り其の思想に動かされて、一夫一婦の觀念や子供に對する責任はやうやく地を拂

はうとしたのであります。

併し、今や、私共は過去の經驗によつて、今迄の所謂社會改良家には社會の改良の覺付かないことに氣付いて來ました。

六

一體、人間には一切の奴隷主義に對し或は不公平に反抗する人間性の成長があります。健全な人間性を實現しようとする要求があります。そして、これは單なる權利の行使でなく高尙な深い、文化其のものゝ創造であります。これを具體的に云へば今日までの人間よりは高尙な人間を造ることであります。そして、其の運動は既に進歩的な國々に於て始められて居りますが、先づ第一に必要なものは婦人の女性としての覺醒、敎育された責任觀の強い婦人の出現であり、そして、其の婦人が社會上確固とした位置を持つことであります。

則ち、修養ある思慮の熟した高尙な人物を養成し得る婦人と國家との關係は何であるかを體驗した進歩した婦人が必要であります。自己利益主義な現實的な今日の狀態

を救ふものは、從屬的でなく未丁年者でなく單なる權利義務を超越した豐富な愛の所有者である婦人であります。國家の基礎を精細に見ることが出來て、國家に奉仕すると云ふことは何を意味するかと云ふことを明かにするならば此處に婦人の眞の使命は明瞭になります。則ち、自然の計畫は婦人を通じて此地上の一切を新しくしようとしてゐるのであります。

人間が幾分なりとも進歩したと云ふ、改革されたと云ふ事實を解剖して見るなら、其處には今迄無かつたものが生れたとか今迄不可能なものと思はれてゐたものが、則はち人間性に反すると思はれてゐたことが可能になつたと云ふことであります。猶これを具體的に云ふならば愛の生れと云ふことであります。つまり、愛の利他と云ふことが進歩を造る。即ち、改造をするのであります。愛は世界を支配する權利でありますす。貴い、そして深刻な必要です。愛はその廣い翼を擴げて、小さいものを大きくし、大きなものをも支配し、因習を取り除き、個人並に社會のあらゆる必要を滿たし、弱いものをも強くします。そして、今日は弱いものを強くすることが最大急務であります。



女性の特質と女子教育

人道主義の見地からは、今日の女子高等教育は何處の國でも失敗に終つてゐます。そして、其の失敗の主なる原因は女子を教育するに、唯單に男子の教育を模倣した處にあるのです。人道主義も男子と平等な女子教育の權利を認めます。けれども、其の教育は、男子とは異つた、女子の生理心理に適合した教育、則ち、女性の本能を枯死せしめないような、女性の生理的の活力を抹殺しないような教育でなければならないのであります。

そんならば、其れはどう云ふ風の教育かと云ふと、今も云ふ通り、女子の生理心理に適合した學課を小學から大學迄課して女子の生來の性質の發達を計るのでありま

す。紐育には、既でに、これを實行してゐる處があります。則ち、家政學、家庭經濟學兒哺育等を完全に敎へるのであります。確かに、これ等の學課は、青年期に達した婦人にとつては植物學よりも幾何學よりも古代學よりもより適して居り、より有益であるに相違ありません。

男女共通に敎へられねばならぬ學課ですらも、男生徒に敎へるのと同じ方法で女生徒に敎へるのは利益でないといふことが發見されました。一九一四年、紐育市の學務委員は、女子の心の發達の順序と其の働き方は全然男子の其れと異つてゐることを發見して、そして、歷史、物理、化學等の別な研究法を女生徒のために工夫しました。男生徒と同じやうな智力上の　を一歩々々と女生徒にとらせることは、いはゞ、音樂に適した子供に繪を學ばせたり、繪かきに生れついた子供に數學を學ばせるのと同じやうに無駄であることに氣が　いたのです。

或る人が調査した處によると、女子は物理や化學の研究には、例外は別として、男生徒と同じ高い標準には達し得ない。けれども、語學や藝術に於ては多くの場合、男

子を凌いで居ると云ふことです。又、野外運動を恣にするためには男子は隨分大きな犧牲を平氣で拂ふのに反して、女子は一寸した障碍に逢つても運動の方を捨てゝしまふと云はれてゐます。女生徒と男生徒は其の趣味に於て、智方に於て、同じではないのですけれども、併し、其處に優劣があると云ふわけではないのです。ですから、それぐ\異つた方面に、つまり、それぐ\適した使命に從ふことによつて、兩方ともが優劣のない偉大な功績を現すことが出來るのです。

大學に於て、人道主義は男女の學課を益々分離しようとしてゐます。大學に於ては婦人はローマンスの時期に近かづきつゝありますが、此の時期に於ける女子は同じ時期にある男子とは全然心理の働き方が違ひます。男子が異性を愛すると云ふことには益々金を儲けなければならないと云ふ義務が起つて來ますから、益々職業に忠實ならしむるやうに彼を刺戟します。これに反して、女子が異性を愛すると云ふことには必ず次代養成と云ふ心持ちが起つて母性と云ふことの義務を考へ、工場や商店や事務所のあはたゞしい

空氣から逃れようと云ふことを考へるようになります。

それ故、人道主義は女子のための學校の課目を選定するに當つて、男子のために發達した課目を模倣することの代りに、女子の後の生活に最も効果あるものを發見しようとしてゐるのであります。人道主義は、特別な婦人、又は、不幸な婦人の外は、婦人は皆家庭に入るものと豫想します。そして、妻として母としての必要なものを學課に入れようとします。

人道主義は普通の婦人には抽象的な學理よりも、溫雅、充實した活力がより大切であることを認めてゐます。文法にかなつて書いたり話したりすることの出來ない法學生に法科大學は卒業證書を與へないと同じように、人道主義は病身な女子には未來の母としての卒業證書を與へません。國語を正しく書いたり話したりすることが法律を實行する辯護士に必要缺くべからざるものであるように、必ず、次代の母となるべき婦人には健康が第一の社會的義務だからであります。辯護士の場合には、病身でも善き辯護士になり得る可能性がありますが、病身な婦人は絕對に善き母とはなり得ない

のであります。

人道主義は、又、聰明な母の家庭敎育が公立學校の敎育に遙かに優つてゐることを認めます。故に、女子敎育の主要な課目として敎育學と心理學を充分に敎授しようとします。そして、今、女子大學と關係して現れ始めた母の學校を奬勵しようとします。勿論、何かの專門家にならうとする婦人は別ですが、普通の婦人のためには女子大學の空氣を結婚に都合がよいようにしようとするのであります。

女らしい生活、及び、結婚生活に興味を持つてゐない娘だからと云つて、つまり、普通の婦人よりも女らしい處が少ないと云ふ理由で、殊更に、男性らしく敎育をする必要はありません。又、そうすることは結局本人にとつても社會にとつても不幸に終ります。生れながらに男らしくない男の子が少し許り持つてゐる男らしい分子を全く壓迫し盡そうとしてわざ〱女學校へ入れる親はないでせう。むしろ、さう云ふ男の子の親は、活潑な靑年達の仲間へ彼を入れ、男らしい敎師を選み、男らしい競技を奬勵し、さうして、男らしく育て上げようと苦心するでせう。それと同じようなわけで

子供の時から女らしくない女の子を益々女らしくなく育て上げようとすることは變なのもです。處が、實際には敎育者も親達も、女らしくない娘を女らしくなく育て上げようとしてゐます。其の弊害は日を經るに從つてだん〳〵明らかになりつゝあります。

敎授の家庭に子供があり、圓滿で整頓してゐて、そして、始終女生徒が歡迎されるならば、それは學校の敎室よりも多大な敎育的價値があります。不幸な家庭、不完全な家庭を持つてゐる敎授は、敎授として不完全であると同じように、女生徒間の風敎に有害です。避姙はのんだくれと同じく社會を毒するものであるに反して、健康な子供達が兩親の食卓を飾ることは博士の學位よりも立派です。

女生徒の指導者には家庭の建設に成功した人が最も適當であります。丁度、或る專門の學門の指導者は、其の學門に成功した人でなければならないと同じように。つまり、やがて家庭を持たなければならない女生徒を家庭的の空氣につゝむで置くべきです。かくして、健全な人生觀が女生徒に生れるならば各生徒の利益であるのみならず。社會の利益は莫大であります。

女子大學の成功・不成功は、卒業生の幸福な結婚の數の比例によつて計るべきです。幸福な結婚の數の多いことは、立派な卒業論文が澤山あるよりも有益なことです。ですから、女子大學の學報のうちには、幸福な結婚をした卒業生の位置を、就職した卒業生の位置の上に置き、そして、立派な子供をもうけた卒業生には母性としての博士號を送るべきです。これは獨身者の學者としての學位よりも勿論上に位びすべきものです。

女子大學敎育は、以上述べて來たような方向に發達して行くべきです。かくしてこそ、女子が敎育されゝばされる程、女子自身も男子も幸福を增進することが出來、人種は改良され、社會改造の基礎は築かれます。で、こう云ふ種類の女子敎育は次の二條件によつて其の目的を達することが出來ます。

一、兩親が娘の學校を選む時に當つて、母らしい婦人によつて管理され、家庭生活と母性の眞意を生徒に悟らせ、しかして、如何なる學課も無用ではないが、併し、婦人としての充分なる發達を妨げないような敎授法を用ゆる學校を選定すること

二、公立學校も私立學校も女學校は獨身の教授の代りに、家庭に成功した男女の教授を用ゆべきこと。殊に、廣い意味に於ての家政學に重きを置き、常に、人道の見地から學校を經營すべきこと。

等であります。（此の一論文の大要は米國の婦人論者のうちに重きをなすマーテン氏の意見をとつたものであります。大體に於て、私の考へと一致してゐるし、且つ又、今日迄の婦人論の分岐點に立つて新しい光明を投げてゐる處から、今、私はこれを御紹介致しました。）

人類の幸福の見地から見るならば、今日の人間の生殖的活動には疑ひなく缺點がある。配偶の選擇が無意識にも劣る不合理な動機で定められてゐる。

其の不合理な動機が、合理的な配偶選擇法なる優生學よりも、遙かに有力になつてゐる。戀愛談の中心となる容貌の美、男女を結び付ける導火線となる容貌の美は、完全なる子供を造ることを保證する生理及び心理的の健康とは無關係である。そして、現代の美の標準は、肉體の完全を標準とした昔の希臘の美の標準からも大いに劣つてゐる。（ブランチヤード）

ソビエット露國兒童敎育の實際

歐露の慘狀

此の頃、或る筋に到着した歐露に關する情報によると、饑饉のあつた地方は其の慘狀言語に絶して居ると云ふことである。で、政府は穀類種子を分配したり、兵士の食糧を半減したり、各種職工も亦食糧の幾分を割いて救恤に努めて居るのであるが、併し、それは無慮二千五百萬人の飢民を救ふのは殆んど二階から眼藥的の感があると云はれてゐる。又、後から〳〵續出する虎列拉、炭疽病患者に對しては隔離病舍に收容すると稱して夜半密かに銃殺されると云ふようなことも云はれてゐる。其の外十五歳以上四十歳迄の婦人が受ける凌辱に付いて、木造家屋が薪代用として破壞されることに付いて到底、事實とは思へないようなことが報道されてゐる。

露國を逃れた一敎師の手記

此の頃、瑞西人ヘクター。ニコールと云ふ敎師が、露國に於ける一九二〇年八月迄の經驗と觀察を日記式に書いて或る

雜誌に發表した。彼も彼の妻も敎員であつて、そして、夫婦は朝から晩迄敎授をして居ても三人の子供を養ふことが出來ない、夫婦の給料を皆集めても子供の牛乳を買ふにも足りないといふ狀態であるので、饑じさのあまり半病人になつてゐる子供達を引き連れて非常な難義に難義を重ねて本國の瑞西に歸つたのである。次に同氏の言葉を御紹介する。

露國は、革命時代の佛蘭西が爲したと同じように、過去の一切を則ち宗敎的、政治的、社會的狀態を全部破壞しようと企てゝゐる。露國に於ては、個人の生活の一切の關係、あらゆる詳細を政府が命令してゐる。それは、過去の凡ての經驗と云ひ傳へを急激に破壞しようがためである。故に、言論の自由も出版の自由も勿論ない。勞働は壓制的に課せられ、そして、各人は僅かの食物を割りあてがはれるだけである。

で、其の狀態を永久的と爲すために則ち次代を其の狀態に適合させるために、政府は子供を全然政府の手のうちに置かうとする。其のために結婚の意義は非常に小さくなつてしまつた。家庭は破壞されたも同樣である。國家の手に引き取られた子供等は親子關係よりも何よりも、國家を思ひ國家を崇拜するやうに訓練されてゐる。

食物の缺乏を恐れて、今日の處では、出產率を出來るだけ低減しようと勸めてゐる。それから、さうすることの名稱は何であれ、事實は生れた子供を政府は母親から五千ルーブルで買ふのである。生

れるとすぐ母親は子供が四歳になつた時には必ず政府の手に子供を引き渡すと云ふ證文を書いて五千ルーブルの金を貰ふのである。母親はそれを抗んだ處で抗み終はせることは出來ないのみならず、もし抗めば其の結果は却つて悲慘な狀態に陷れられなければならないことになる。

モスコーでは五歳から十四歳迄の子供は學校から貰つた切符を持つて公立食堂へ行つて食事をする。政府は到る處に其の方法を應用しようとするのだけれども資金の缺乏のためにさうならないのである。露國に於ては、食物は全く缺乏してゐる、主なる都會のうちですら食ふに耐へないもの計りである。バタ、牛乳、小麥のパン、ロ・などは全然ない。

教育も全く成つてゐない。四歳から八歳迄の幼稚園、八歳から十三歳迄の小學十三歳から十七歳迄の中學　其の全部が皆、「ソビエット勞働學校」と看做されてある。けれども、其の中學校の卒業生は筋肉勞働にも智力的勞働にも全然適してゐない。出席缺席は生徒の自由だし、試驗もなければ、採點もない。各生徒は、唯年齢に應じてずん／＼昇級して行く。そして、高等、則ち、特別な訓練を施す設備は何にもない。宗教上の教へは勿論禁じられてあるし、男女を區別する設備は全然ない。男生徒も女生徒も自由に喫煙してゐるし、又、多くの生徒がモスコーとペトログラードの間で盛んに投機をしてゐる。教師はどう云ふ取り扱ひを受けてゐるかと云ふと、大學出の教師も、殆んど無學な無經驗な教師も、給料は同じ

である。併し、其の給料は食ふだけもないのである。なせなら、紙幣では殆んど何にも買へないのであるから。小馬の肉が非常に贅澤な御馳走とされてゐる。先づ、きまつた食物は馬鈴薯とキャベージである。

それで居て、組織された社會黨の少數と、役人はいつも殆んど無代で、バタ、牛乳、麵粉、牛肉、魚肉、羅紗、靴等を支給されてゐる。彼等は、學校の敎師、學生、小使に至る迄の分の必要品を横取りしてゐるのである。

二十年後には露國中に讀み書きの出來ないものは一人も居ないようになると云ふことが豫言されてゐる。けれども、實際に於ては、露國人は何にも覺へつゝありはしない。なせなら、學生は、唯、鉛筆と雜記帳を持つて居る計りで、敎科書も地圖も器械も何も持つてゐない。處でピヤノは學校を始め諸官省に澤山ある。と云ふのは貴族や資本家階級から無數に沒收して來たのだ。それを誰でもが勝手に弄ぶことが出來るようになつてゐる。

一般人が如何に墮落して居るかと云ふことは一寸した話によつても窺はれる。私の一人の同僚が病を得て入院した。退院してからの或る日、彼は次のやうに云つた。

「病院内も隨分ひどいが併し普通の家庭よりは少しはいゝ。なせなら、食物が普通の家庭よりは餘計にあるから。併し、驚いたことが一ッある。或る時、私は病院の廊下をブラ〳〵歩いて居て「圖書」と云ふ張札のある大きな戸棚を見付けて開

けて見た處が、本は一冊もなかつた。聞いて見た處が皆吸つてしまつたのだと云ふ。患者が本を請求するので持つて行くと、それは決して讀むのではなくかたッぱじから引き裂いて煙草を卷いて吸つてしまつたのだ。圖書全部が吸はれてしまつたのである。』

と。多くの掠奪して來た個人の圖書もそれと同じ運命に出逢つてゐる。又、中等以上の學校に於ては、自然科學の實驗室にアルコール漬けにしたものがいろいろあるが、學生は密かに其の實驗室に忍び込んで、そして、アルコールを呑んでしまつて其の代りに水を入れて置くようなことをしてゐる。

或る日のことであつた。十一二歳の二人の男の子が歩道の緣に腰を下して、そして、すました顏して卷煙草をふかしてゐた。すると一人の婦人が通りがゝりに其れを見て、そして、立腹したような顏して口のうちで何にかつぶやいてゐた。けれども、子供達は平氣であつた。其の婦人が通り過ぎてしまうと一人の子供が他の子供をかへりみて『あれは僕のお母さんだよ。」と云つた。他の子供が『君のお母さんなら、煙草を吸つてゐる君を見て小言を云ひそうなものぢやないか？』と云つた。けれども、さう云はれた子供は『お母さんには何にも云へやしないよ僕は昨日賭博をして十萬ルーブル儲けたんだもの。』と云つてゐた。

以上のヘクター・ニコール氏の言葉を總括して見ると露西亞と云ふ國は國民の經濟的、社會的、敎育的、家族的關係を

全く根こぎにしたものである。であるから、子供等は儉約をするよりは盜みの方に、敎育を受けるよりは賭博の方へと走り、其の方が結局自己のために安全で利益であるように思つて居るのである。事實、又、敎育を受けると云ふことは饑じさを我慢することだと信じて居るのだと云ふことである。

少年のオデセー

一昨々年のことであつた。露國の首都ペトログラードから一千人の子供が、食物がなく、且つ、病氣の故に、ミンスク地方へ送られた。處が、其の當時の政治上の事情は其等の子供を兩親の許に返へす事が出來なかつたので、ミンスク地方官廳は止むを得ず、其等の一千人の子供の保護を、亞米利加の赤十字社に賴んだ。其の子供等は二年間赤十字社の保護を受けて居たのであるが、其の間にいろ〳〵な事情で東へ〳〵と動いて行き、ツイに世界を一周した。

此の子供等の團體に附添つて居た醫者はハーバート・タール ター博士であるが、彼は此の一團を『千人のオデセー』と稱し、そして、引き受けた時には全く病人であつた者や或ひは半病人であつたのが彼の監督の下にあつた二年後には皆普通以上の健康となり、其のうちの死亡者は僅かに五人に過ぎなかつたことを彼は自慢してゐる。

最初、此の一團はシベリヤを横つて浦潮の近くの露西亞島に到着した。そして日露戰爭當時、兵士のために建てた大きな五つのバラックの中に起臥することに

なつた。
處で、それ迄に訓練と云ふことを少しもされたことのない其の子供等は、まるで野獸のやうで、彼等を組織することは全く不可能のように思へた。其處でクールター博士は、少年義勇團長の手を借りて、其の一千人を少年少女義勇團體に組織しようと思つた。それは實行された。そして、子供等は先づ義勇團とは何であるかを敎へられ、自分の國と國旗に忠義であらねばならぬこと、名譽を重んじなければならぬこと、心身を清潔に保つべきこと、柔順であり、獨立の精神を重じなければならぬこと等を敎へられた。で子供等は自分達が訓練されつゝあると云ふことを知らずに居る間に訓練されて居つたのである。

一體、露西亞人は舊帝國の政體から離れて以來、凡ての軍事的形式に反抗心を持つてゐて、軍人式の敎育を嫌ふので、子供等の保護や敎育を軍人に賴むと云ふことは全然不可能だと云ふことである。其處で、其等の子供の一團を義勇團體と云ふことにして求むる目的を達したのである。少しも訓練を受けてゐない子供等を組織するには此の義勇團と云ふことが最善な方法だと云はれてゐる。

それから赤十字社は浦潮の敎育機關と共同して子供等のために學校を造り、幸ひ、墺地利匈牙利の捕虜のうちに見出された藝術家に授業上必要な地圖や海圖を作製して貰つたりした。又、子供等を幸福にするために健康な運動、遊戯、及び音樂隊も組織され、舞踏會も毎週催され

た。或ひは又、半破れかゝつた教會を修繕して其處で說敎したり日曜學校を開いたりした。

後に、此の團體は太平洋を橫つて長い旅をつゞけ、パナマ海峽を經て紐育に行き、暫くプレストで休息した後、バルチツク海岸に到着した。が、此の時には子供の數は七百七十七人になつてゐた。と云ふのは露西亞島に居る間に十八歳になつた十五人の少女は赤十字社の病院の一つに這入つて四ケ月の學業を經た後看護婦の助手となり、十人の少女は師範科を出て敎員となり、其の外多くの少年は體操科、又は、商科を出て、それ〴〵職業に付いたのである。

處で、紐育に居る間に一事件が起つた。米國には移民法があるために上陸がなか〳〵難しかつた。で、其の移民法に觸れないために子供等は陸軍の監督の許に置かれなければならなかつた。そして、子供等が市中を見物するにも必ず兵士が附いてゐると云ふ風であつた。或る時、赤十字社では子供達を滿足させ、且つ、子供達と露本國との接觸を計るために在紐育の凡ての露西亞人に、子供達に面會に來るように招待狀を出した。處が其等の露西亞人のうちには多くの主義宣傳者がゐて、そして、子供達に向つて、

『一體赤十字社は社の名を世界に廣告するためにお前達を連れて世界を一周したのだ。其の上にお前達は陸軍の監視の下に居るではないか。だから、お前達は名は何であらうと實際に於ては捕虜だ、奴隷だ。お前達はお前達の故郷ペトログラ

ードへ連れ歸へられることの代りに冬になると佛蘭西へ送られてしまうのだ。』と云ふようなことをふき込んだ。すると、子供達はすつかり不安の念に襲はれて一大騷擾を引き起した。彼等は大會を開いて、そして、決議文を造つた。其の決議文は

『何故に、我々は遙々故鄕を離れてかくの如き處に連れ來られたか？　何故に、又、我々は軍人の護衛を受けてゐるか？其の說明を求むる。』

と云ふのであつた。けれども、彼等は懇々と說明を聞いて、再び、平和な滿足な狀態にかへることが出來た。

　彼等が最後にフインランドに到着した時にはフインランド政府がやかましいことを云ふので上陸が非常に難しかつた。けれども、ツイに許可されて、上陸すると此の一團體は海岸にある養生院へ這入つた。其處へ落ち付くと、すぐ、赤十字社は子供達の兩親に通信しようとして努力を始めた。子供達の姓名、及び、子供達に付いて知られてゐるあらゆる事柄を印刷して、そして、其れを露國全體へ振りまいた。すると、其の努力は空しくなく兩親からの手紙は束になつて流れ込んで來た。

　それから後に、ソビエツト政府の、其れ等の子供を引きとつて世話すると云ふ承諾を得て、子供達は皆本國へ歸へることになつた。久々で子供達はなつかしい父母の許へ歸へることか出來たのである。

要するに、露西亞の今日の混亂、從つて、子供等の墮落、難義は、皆、露國が共產主義を實行しようとしたことの結果であらう。勿論、露國が歐洲大戰に參加した上に、革命に革命を經てツイに今日の如き窮地に陷つたには相違ないけれども、併し、其の主なる原因は矢張り共產主義の實行であらうと私は思ふ。たとへ眞理であるとは云へ、それを實行するには自ら道がある。眞理とは原理で、道とは經驗である。

共產主義が果して一社會を納めるに實行出來るかどうかと云ふことに關しては可なり多くの議論があり、そして、多くの識者及び實行家の結論は其の實行不可能である。それにも拘らず、レニン一派は其れを實行しようとした。彼自身としては共產主義を實行しようとするに當つては確固として成算があつたのかも知れない。併し、結果から見ると、其の成算がなかつたと同じである。事實が其を證明してゐる。

則ち、レニンは原則を摑んでも其れを實行する道を持たなかつた、つまり、經驗がなかつたのである。實に彼は原則が直ちに實行出來ると思つた、云ひかへれば、純理に誤まられたものである。もう一度これを云ひ直すと、理窟に誤まりはないとしても、人間性と云ふものを忘れてゐたことがレニンの計畫を實行不可能なものと爲したのである。



太平洋會議の側面觀

一國の國情と云ふものは、なか〳〵他國へは分らないものである。私が此處に云ふ國情とは其の國の大勢を成して居る力を云ふのである。日米關係に付て特に其れを思ふ。船の往復は月に五六回はあつて、其の度每に多くの人は行つたり來たりしてゐるし、電報も每日幾回となく往復してゐる。其の　に日本に居る米國人も可なり多いが、米國に生活して居る日本人は實に十五六萬人はあるだらう。それでゐて、兩國は親善處ではなく、お互ひの國情ですら分つてゐないのである。そして、此のお互ひの無理解が少しづゝ、日米間に障壁を造つて遂ひに越ゆべからざるものとなつてしまつたのである。

一體、米國の東洋人排斥は日本人に對してよりも支那人に對する方が先きであつた。支那人排斥がとう〳〵政治に迄達して、そして、ツイに支那人排斥の法案が出來たのは明治十七八年頃のことであつた。日本人排斥の第一聲が擧がつたのは其れから間もなくであつた。そして、

それはヲードンネル(?)と云ふ醫者の口からであつた。彼は一度桑港の市長になつたが其の時大分勢力を得たので、後に加州知事にならうとしてデモクラツト黨から候補に立つてレパブリキャン黨の候補者と競爭した。そして、其の時の彼の宣言は日本人排斥であつた。"Japanese must go."と云ふ標語は其の時の彼から始まつたのである。以來、日本人排斥運動は益々盛んになつて、學童問題となり、紳士契約となり、其の外いろいろの問題をひき起して、とうとう日本の移民を杜絕してしまつた。

處で、こうなるに付いての其の發端は何かと云ふと、其れは決して理窟でなくむしろ、感情であつた。つまり、日本人が米國人の感情を害したことに始まつてゐるのである。日本移民の最初の根據地は桑港であつた。そして、其の移民の多くは米國船に雇はれて渡米した水夫であつた。彼等の數は徐々と殖へて、遂ひには、日本水夫の宿屋が水夫の一人によつて經營されるようになつた。これがそもそも日本人の宿屋の最初のものであらう。

其の當時、支那人のために支那人の多く住んでゐる處に基督敎會が出來た。そして、傳導師はギブソン博士と云ふ硬骨な紳士であつた。博士は日本人のためにも敎會を造つて傳導しようと努力してゐた。其の結果、少數の日本人の信者が出來、そして、博士の許に先づ第一の日本人の傳導師となつたものは三山貫一氏であつた。支那人敎會の地下室を日本人敎

會に當てたものだが、これが日本人敎會の最初のものである。其のうち會員もずん〜〜殖へたので後には支那人敎會から離れて、米國美以敎會の補助の下に、桑港ジエシー街へ獨立の敎會を造ることが出來た。そして、これは、主もに日本學生の寄宿舍であつた。

さて、米土へ排日の種を蒔いた者は此の學生と前述の水夫であつた。と云ふのは、米國中何處をたづねても白晝酒を呑んで踊り狂ふと云ふやうなことは殆んど米國にはないことであるが、日本人は其れを平氣でしてゐた。白人の醜業屋も勿論澤山あるが、併し、彼等は白晝はヒッソリ閑としてゐるに反して、日本人の醜業屋及び料理屋は朝つぱらから大騷ぎをする。處で、さう云ふ種類の日本人が澤山集まつてゐる處の近くに有名な大きな米人の敎會があつて、其の敎會の無數の信者達は敎會への往き歸へりにどうしても其の日本人が巢くつてゐる町を通らなければならない。そして、白晝、呑み狂ふて騷いでゐる皮膚のキタナイ矮少な人種を見て、彼等の憎惡の念は彼等の腦天を突いた。"Japanese must go" と云ふ言葉は彼等の口からほとばしり出た。そして、其の感情が一部の俗政治家にうまく利用されたのである。

又、一方、敎會に寄宿してゐる學生達は、學校に這入つて勉强するのが目的であつたけれども、都會に居て所謂學僕をしてゐたのでは時間はあつても學資が足りないと云ふので、學資を得るために田舍に働いてゐる支那人を模倣して、果實

摘みや、ホップス(ビールの原料)摘みや其の他農夫の手傳ひをしようとした。けれども、其頃の學生は、曾て、本國の日本に居た時、勞働問題や賃銀制度などに付いて聞いたことがないから、米國の勞働界がどんな風であるかと云ふことに付いては夢にも知らなかつた。そして、唯仕事を求めるに急であつて、白人の勞働者よりも、否、支那人勞働者よりも安い賃銀で働かうとした。其れが唯一の彼等が仕事を得る方法であつた。彼等は、決して、白人勞働界を攪亂したり、白人勞働者を苦しめるつもりではなかつたのだが、米國の經濟組織を知らなかつた悲しさに、結果は矢張り白人勞働界の攪亂者になつてしまつた。そして、これが、米國勞働者に排日の大きな經濟上の理由を與へてしまつたのである。

其の後の日本人は公德心に於て、經濟思想に於て、着々と向上したのだけれども、併し、米國人の頭に先入主となつてゐるものが拔くべからざるものとなつてゐるので、日本人に對する反感は益々たかぶり、とう〳〵日本移民は致命傷を與へられてしまつた。

日米問題を解決しようとして、兩國の有志達が行つたり來たりする。日米親善を計らうとして有志達がいろ〳〵と相談したり、決議をしたりする。けれども其の相談や決議は米國には何等の効力がないことを日本の有志達は知らないようだ。所謂米國の有志と云ふのは雇主で勞働者ではない。そして、米國の雇主は勞働者には公的には殆んど何等の信用がない、

否、むしろ、敵視されてゐる。

宗教家も亦日米親善に盡そうとしてゐる。處で、これも實際には何等の力がない。なぜなら、基督教は米國の宗教ではあるが、併し、米國民の大多數である勞働者は基督教會を金持ちの遊び場所だと思つてゐる。だから、宗教家がどんな眞理を云つて聞かせても何を説明しても一般米國民は耳をかしはしない。

一部の米人が日本とどんな約束をしても、多數決でどん／＼問題を處置して行く國であるから、其の約束は何にもならない。もし、其の約束をした人が一般勞働階級から反感でも持つてゐようものなら、日本のために却つて厄介である。であるから、日本の資本家や宗教家が、事の眞相も極めずに、日米問題のために、どん／＼渡米して行くことは餘程考へ物である。役に立たない計りでなく、却つて米國民の反感を益々增すことになるから。

要するに　日米問題を解決しようとするならば、此の問題の根本であつた、米國人の日本人に對する感情を直さなければならない。社會知識の缺乏と社會道德を無視したことが問題の原因であるからして、問題の解決には其處から出立しなければならない。

其の外に、此の日米問題を大きくしたものは、日清及び日露戰爭であつた。それ迄は何と云つても米國には未知數であつた日本が此の二度の戰爭に於て、侮るべからざる力を示した、それ迄は、唯、嫌ひな人種であつたのが、今度は恐しい

人種であると云ふことになつた。そして日本の狀態を知れば知る程、產業は急激に進んで行くし、船舶業は有力であるので、東洋全體の利益は全部日本に占められるように考へた。で、もとは單なる一片の感情であつた問題を益々擴大して行つて、遂ひには世界の問題にしてしまつたのである。

其處で、今回の太平洋會議の主題は軍備縮少であるらしいが、併し日米間に軋轢を造つた此の移民問題を先づ片づけなければならないだらう。

私は本誌本號『敎育社會學』の終りに學校の傍に畑を持つてゐる農夫と學童との間の悶着(六二頁參照)に付いて書いて置いたが、日米問題は、殊に移民問題は、日本人が農夫の畑を荒す不注意な學童で、そして、米國人は、學童の其の不注意を怒かる、學童から見れば意地惡な農夫である。其の農夫と學校とが相接し、話し合つた結果、農夫と學童との間には了解が出來て、圓滿に解決は付いたが、さて日米問題はどうなることか？　今回の會議の成功不成功は會議に參加する人達計りの誠意では足りない。兩國民全體の善意と誠意がなければならぬのであるが、果して、其れがあるかどうか？



新時代の夫の資格

不具な子供を生むことを非常な恥辱とする風習に對して、子供の時の私は隨分無理な注文だと思ひました。誰だつて不具な子供を生みたくはないが生れるものをどうしようもない、それを世間がもの笑ひの種にしたり、生んだ本人も非常な恥と考へたりすることは誠にいはれのないことだと思ひました。處が、其れが大いにいはれのあることだと云ふことを悟つたのは餘程後のことでありました。

なぜと云ふに、不具な子供を生むと云ふ不幸事は、絶對とは云へないものでせうが、或る程度迄は人智で避けることが出來ます。つまり、自分の血統に缺陷があつたり、自分自身が病弱であつたりするならば結婚を遠慮するとか、又は、自分の血統が純潔で自分も健康體であるならば、夫を選む際に男の血統と健康を嚴重に調査するとかすれば、先づ、不具な子供を生むようなことはないと云つても差し支へありません。

けれども、不具な子供を生んだと云ふことは、さう云ふ處に何等顧慮する處がなかつた、つまり、手前勝手な無分別な情慾のために不幸な子供に生を與へ、種族を不純にする罪を犯したのであります。そして、それに對する罰が世間の嘲笑、不愍な子に對して一生涯苦しまなければならないのだと云ふように、後に私は

考へるようになりました。

結婚は婦人にとつては彼女の全生活であるが、男子にとつては彼の生活の一部分であると云ふことが云はれ、そして、それは婦人の生活を劣等視した言葉であります。同時に、結婚を輕視した言葉であります。成程、結婚以外の生活、たとへば、產業、學問、藝術は私共の生活に價値あるものには相違ありません。けれども、男子の生活は其等の生活に重きを置き過ぎて結婚生活を輕視し過ぎてゐました。『男子は生產者として彼の最善を盡すが、併し、戀人として夫としては少しも努力しない。』と云ふエレンケイの小言がある位です。

結婚の意義、及び、其の使命を忘れて物質を偏重する男子は、結婚以外の生活が人間らしい男らしい仕事であると考へるのでありますが、併し、彼等の生活だからと云つて、矢張り、其の中心點は良き配偶を得た結婚生活でありませう。特種な人間は別として、普通には、たとへ、巨萬の富が出來ようと世界的に名が成さうと圓滿な結婚生活がなければ、決して、幸福でないのはどうしたものでせう。

若い獨身者が一生懸命勉强したり働いたりする口實は、學問のためか、又は、事業のためであります。けれども、彼の心のうちには愛人の俤、未來の妻、平和な家庭が其の大部分を占めて居りませう。又、既婚男子の勉勵も、さうする動機はいろ／＼あるとした處が其の重もなるものは矢張り妻子の生活の安全と云ふことでありませう。して見たならば男子の生活も矢張り結婚生活が中心であり、外の生活の基礎となつてゐるものであります。唯、婦人の生活が直接結婚生活に關係してゐるのに反して、男子の生活は間接に結婚生活に關係がある、つまり直接間接の違ひがあるだけで、要するに結婚生活は男女同じやうに重大であり、幸不幸の別れる處です。

人は何のために學問しますか？　人類の生活をより向上させ、より幸福にしようとするに外ならないでせう。何のために生產しますか？　人類の生活資料をより豐富にし、より幸福にしようとするに外ならないでせう。そして、其の人類の幸福の基礎は先づ圓滿な結婚生活がなければなりません。

何千年來の人類の經驗が女性には女性の生理心理に

都合がいゝように、男性には男性の生理心理に都合かよいように別な生活の型を造りました。そして、女性は女性たるの特權によつて人間本來の使命に忠實でありました。けれども、男性は物質を偏重するあまり、其の人間本來の使命を忘れました。そして、其處に無數の禍が醸されました。

で、今日の婦人の仕事の一つは其の脫線した男子を本道に歸らせることでありますが、さうするに付いては議論よりも政權よりも、經濟上の力よりもこれから結婚しようとする若い處女達の男子に對する態度が最も有效だと思ひます。巨萬の富があらうが世界的に名を成して居ようが、もし、男が結婚の意義を知らず、子供に對する責任を感じて居ないならば、さう云ふ男は斷然排斥して結婚上の落伍者にするのです。

全く盲目的に無自覺に世間を見ることも出來ず、將來を考へることも出來ずに、今日迄の無智な女のやうに結婚を自分の生活の全部と考へて居ては困りますが併し、女性としての使命を自覺した上で、結婚生活を生活の全部と考へることは立派なことです。唯、一口に結婚生活と云へば誠に單純のやうでありますが、結婚生活を完全に營まうとすれば、エレンケイも云ふやうに、其處には種々雜多な事柄が起ります。一日、日を送ると云ふことは何でもないようで、實際には千差萬別の折衝があると同じように。そして、それを一々相當に解釋し、最も適當に處置して行くには、それ相應な理解力、及び、智識が必要です。

ですから、普通一般の人としては男も女も結婚生活を生活の全部とし、其れを圓滿にまとめて行くならば其れで立派な一人前の人間でありますが、併し、世間にはそれをまとめて行きかねる人間が余まりに澤山あります。そして、そのために面倒が絶へないのです。

若い婦人が夫を選まうとするに當つては、ウオルト・ホイツトマンの名句

わたしはお前のために生れて來た、お前はわたしのために存在する。

否、わたし達は、わたし達計りのためではなく、種族のために存在する。

お前のうちにつゝまれて偉大なる英雄と詩人が眠つてゐる。

其の英雄と詩人はわたし以外の男の手によつで目醒

まさるゝを挾んでゐる。

と云ふやうな氣持ちで自分に對してゐる男子を選むべきでありますが、併し、現在の狀態にあつては、そんな高尙なことを云つて居たのでは、殆んど、結婚は不可能と云ふことになりませう？ですから、せめては、さう云ふことを理解し得る男子を選む位ひが最上でありませう。

とは云つても、今日に於ては、極く少數だとは云へ眞面目な精選された人種、戀愛及び結婚の意義を重大視して來ました。そして、浮薄な粗野な結婚を輕視し甚しきに至つては、結婚は單に性慾の苦痛から逃れる一手段だ位ひにしか思つてゐない男子が、到底窺ひ知ることの出來ない幸福を味つてゐます。さう云ふ男子が一人殖へれば一人だけ二人殖へれば二人だけ世の中はよくなつて行くのであります。

それに付て、生田長江氏も『婦人解放よりの解放』のうちで、トルストイの言葉を解釋して、『幾人もの異性を愛した人間よりも、たゞ一人の異性のみを愛した人間の方が結局餘計に戀愛の事業を經驗してゐるのだ』と云つて居られます。

哲學界に一階段をしつかと築いたハバート・スペンサーが近所のうちで子供が泣くのをうるさがつて腹を立てたと云ふことを聞いて、私は、「スペンサーは偉大な學者であつたけれど、併し、子供に對する愛情はなかつたのだ。スペンサーのために惜しい」と云ふ風に考へてゐました。處が、此の頃「それも無理はなかつたらう」と考へ始めました。なぜなら、泣く理由があつたり、又は、止むを得ず泣かせなければならない場合には子にも親にも同情出來ますが、併し、傍で一寸心をつかへば少しも泣かせずに濟むものを、母親が馬鹿で鈍で、氣がきかないために、子はじれる、泣く、あばれる、果ては母親迄がキタナイ聲を張り上げて、キー〱ガー〱騒いだのでは、家と家が接近してゐる都の生活では本當に近所迷惑です。私は、今になつて、スペンサーの氣持ちが分つたような氣がします。

成金と淸貧

貧乏と云ふことは、金の貧乏よりも心の貧乏の方が事態が重大であり、從つて、不幸が大きいものです。『淸貧』と云ふ言葉と『成金』と云ふ言葉がありますがこれは句調から云つても言葉の意味から云つても對照の面白い言葉です。此つ『淸貧』と云ふのは金は無いが人格の高い、時には愛情の豐かな人の生活で、『成金』と云ふのは金こそ澤山あるが、併し 人格の劣等な、愛情の貧弱な人の生活です。

そして、どちらがより幸福で、どちらがより不幸であるかと云へば、誰でも前者がより幸福であると云ふでせう。金がなくて粗衣粗食に甘んじて居なければならなくても、高尚な考へと豐かな愛情を持つて居れば人は可なりに幸福な日を過ごすことが出來るに反して湯水のやうに金を使ふにさが出來ても俗惡な考へに仕配され、愛情がとぼしいならば決して本當の意味の幸福を味はうことは出來ないでせう。

又、烈しい貧乏が人の心身を害し、社會の禍を醸すと云ふことも事實ですが、併し、金を澤山持ちながら心が貧乏であるために、つまり、人格がゼロで愛情にとぼしいために其の心身を害し社會の禍を醸すことは金の貧乏人よりも範圍が廣く、從つて、其の禍も大きくなります。

金の貧乏人が貧乏のために餓死するやうなことは今日に於てはめつたにありませんが、併し、心の貧乏人が食ひ過ぎ遊び過ぎの結果、心身を害し、ツイには身を亡す例は數へきれない程澤山あります。そして、そう云ふ人間に限つて、必ず、其の滅亡の道連れを造ります。

獨逸は一度我が國の敵國でありましたが、併し獨逸人は偉い國民です。そして、其の偉さは何處から來て居るかと云ふと "Simple living and high thinking" 考へを高尚に生活を單純に、つまり、淸貧に甘んじてゐようと云ふことが國民の信仰になつてゐたからです物質生活を出來るだけ單純に精神生活を出來るだけ高尚にしようとする心掛けが獨逸をして世界に秀でた有

力な國としたのです。

獨逸は、あの恐しい三十年戰爭のために少なくとも二百年の退歩をしたと云ふことが最も正當な計算であるようです。其の戰爭の結果、人口は減り、產業の進步は全く止み、教育は殆んど地を拂ふと云ふ狀態になつたのであります。ライン河からウイスチュラ河、バルチック海から巨人山に至る迄先づ文明が全部破壞されたと云つても過言ではなかつたのです。人口は殆んど五分の一になつてしまつたのです。學校、教會、傳道師、教員は殆んど全滅と云ふ狀態になつたのであります。

其の時に當つて國民はどうかもう一度平和な生活をしたい。お互ひの助けによつて富源を發達させたいと云ふ希望を持ちました。そして、其の希望、決心がどう云ふ方法で現れたかと云ふと、"Simple living and high thinking" と云ふことであつたのです。終日働いて家に歸つても着かへる着物もないが、併し、塵を拂つて自習につとめると云ふ風だつたのです。

其の精神は國民計りでなく、國王も皇后も着のみ着のまゝで裝飾品などは一切廢して破れ道具の中に坐して國事をとつて居られたと云ふことです。擧國一致の其の單純な生活、高尙な考への結果は物質上の餘裕を生んで產業上世界に冠たる國となつたのみならず、世界の思想界の巨頭をも獨逸は幾人か生んだのであります。今回の大戰爭前の獨逸の軍國主義は決して〳〵賛成出來るものではありませんが、併し高遠な理想を揭げて勤勉に努力すれば何事でも成らざることはないと云ふ證據には充分であります。

そして、これは一國にとつても一家にとつても亦一個人にとつても同じことであります。ですから、物質の貧乏は大して心配にならないが、併し、心の貧乏が恐しいのであります。物質がどんなに豐かでも、心が貧乏ならば、其の物質は忽ち消滅してしまうのみならず物質の消滅よりも猶大きな禍を後に殘すものですが心が豐かであれば、それに伴つて物質は必ず生み出されて來ます。

歸鄕記の中から

原田琴子

×

八月十六日十二時四十分發の南三原行の汽車に乘るつもりで私達は兩國停車場へと入つた、私は大きなバスケットを持つて、子供は女中に負さつて居る。朝から雨模樣のいやな日であつたけれど今日は舊暦七月十三日に當つて郷里のお盆であるといふわけで、私達は强いて出て來てしまつたのであつた。尤も是が非でも今日行かねばならぬといふ必要も無いのだつたけれど前日からすつかり支度もしてあつたし、一反きめたのをたゞ天氣位のことで止めたくない感情からつひ、高い下駄を引ずり／＼小石川の奥から出て來た次第であつた。ところが家を出て江戸川の電車停留場まで來る數町の間に幾度か驟雨に出逢つたので着物の袂や裾はいつか濡れしぼれてしまつた、負さつてゐる子供を後ろから撫でゝみるとメリンスの單衣がしつとりとして白いエプロンはぐしよ／＼に濡れしかも兵古帶の色が染まつて藍色になつてゐた。「冷えて風邪でも引きはしないだらうか」と私はすぐ心配になつたもの丶さりとて今更引きかへす氣にもなれなかつた。江戸川から出る錦糸町行の水

キー車は仕合せにもすいてゐた、で子供は窓から戸外を見ては喜んでおしやべりをして田園へつくまで飽きなかつた。私は子供のおしやべりに折々相づちを打ち乍ら救はれたやうに思つてゐた。そして「こんなお天氣だから汽車も多分すいてゐるだらう」などと考へたのであつた。

ところが今私達の入つた停車場の光景は如何であらう、人で人で一杯になつてゐる、うよ〳〵とざはめいてゐる男や女や子供、その多くは低級な、動物的な表情をした人々である。私はふと思ひついた。

「さうだ、お盆で宿下りに郷里へ歸る人達が多いのだ。」

思ひながら時計を見るとまだ十一時半にしかならない、私達の乘るべき汽車が出るまでにはまだたつぷり一時間はある、何處かベンチにあいたところはないだらうか

重いバスケットを手にさげたまゝキヨロキヨロあたりを見廻はして見ても殆ど寸席もみつからない、隅の方の薄暗くて風通しの惡い人いきれで氣色の惡くなりさうなところでもあまさず人がかけて居る、一時間も立ん坊をするのかしら、この人いきれ、この濁つた空氣のなかにと呆れて私はたたづむだ。自分はまだいゝけれど重い子供を負つた女中が氣の毒に思はれる、窮屈がつてむづかる子供も可哀想である、せめてお天氣でもよければ戸外を歩かせようもの——と私は折から丁度盛んに降り出して來た雨足を窓から恨めしく眺めるばかりであつた。然しどうといつて仕方もない、か

ういふ時誰か知つてる人が居合せて好意から子供に席を讓つてくれたならと虫のいゝことを考へてみたりする。時間の經つのがまたばかに遲いやうに感じられる。人と人とですれ合ふ中をあちこちと歩いては子供の機嫌をとつて居るやうだつた女中はつひに私のそばへ歸つてきて何かお菓子をと云ふ。子供は肥えふとつた手足をばた〳〵さしてぐずつて居るのである。仕方がない、バスケットからビスケットを出してやる、が一つ與へるともう最後である、子供は忽ちの間に食べてしまつてもつと云ふ、二つや三つはまたゝくひまである。そしてあとをやらなければ前よりも一層さかんにぐずり出す。泣いてもいゝ左様はやれないと思つて私はバタンとバスケットを閉ぢて立ち上つた『さあ母さん切符を買つて來ますからね、おんもをご覧、ほら雨ちやん降つてゐるでせう、雷ちやんむく〳〵でせうね坊や』

おとなしくしてゐてはいつまでたつても買へないと觀念して、思ひきつて人をかきわけつきよけして前へ出て切符を買ふ。がまだ改札といふより一層の難關があるわけである。改札口を早く出る事に依ていゝ席がとれるのだ、汽車に乘つてまで立ち通しではたまらない、左様考へた私達は十二時十分の成田行の列車が發車してしまふとすぐその閉された改札口の前に陣どつて改札が始まつたらいの一番にこの難門から解放されるべく身構へた、どうせ何處に立つてゐるのも同じことだからとだが時計をみると今度の改札の始まるまで少くとも二十分はあるのだつた。同じ思ひの人も多いと

見えて一人二人やがては數十人の人々が私達の周圍に集まつて來る、時計の針の進むにつれて人數は殖えて來る、蒸し暑いやうな鬱陶しいやうないやな氣持が大人でさへするのである、さあ子供はやかましくぐずり出して來た。『汽車、汽車にのる、あやく、すぐ』と叫ぶ。止むを得ずまた籠をあけてビスケットを出すといふことになる。改札口を目ざして詰めかける人は益々多くなつて漸く騒しい光景が演じられさうになつてくる、泣いてもいゝとまた私は思ふ、だがほんとうに何といふ事だらう。夏の汽車旅ほど子供にとつて迷惑なものはない、何だつてこんな思ひをしてまで汽車に乘らねばならぬだらう。左樣思ふ次ぎには私はお盆だからぜひ來るやうにとしつこく強要して來た親達の心をまで恨みたくなるのだつた。孫の顏を早く見たいといふ欲望の外に何もない心。それが私には全然利己的な心とよりは考へられなくなるのであつた。

×

兩國驛を出てから二時間あまりを汽車に揺られた後、廣々と稲田のついた平野のまん中にある鄕里の停車場へ下りた時は、私達はほつとするやうだつた。停車場の構内から出るとすぐそこにある茶店へ荷物をあづけて身輕になつてからのんきにゆつくりと私達は歩き出した。子供は路ばたにおかしな足どりで歩くあひるを見て忽ち歡喜した。

『あひ〱、ぐつぐつぐ、田ん中に、もう一つ、あすこにも』と目をまるくして叫ぶ。

雨はとうに止んで陽が雲間から射して居た。路も乾いてゐた。濡れた袂や裾はいつかチリ〱に縮んでゐた。

何といふ靜けさであらう、何といふ清しさであらう、芳ばしい香料でも漂ようてゐるやうな空氣その空氣に觸れる顏や手や足の何といふ快よさ。汽笛の余韻を遠く野にひゞかし、一條の黑煙を空に曳いて遙かに遙かに汽車の走り去つた後のひつそりとした天地。その中にたゝづむで私は田園に住む者の健康をしみ〲羨みたい思ひがした。

×

私は子供と共に鄕里の兩親の家に夏の十數日を過した。そしてその間には子供のためによいこともわるいこともあつた。

子供にとつて何よりもよいのは田舍の自然であつた、東京の手狹い住ゐよりは幾倍か廣くゆつくりした家や庭やであつた、そしてまた廣々とした田圃であつた。金魚やあひるや七面鳥や鷄やを朝夕に友達として遊べることであつた。動物や鳥類を殊に好きな私の子供は七面鳥を見てゐるといつまでも飽きる時がなかつた、そしてその啼き聲や身振りを眞似ては夢中に喜んだ。

「子供の體のためには田舍がいゝ、」と私は幾度も感じさせられた。僅か十日ばかりの間に私の子供は見違えるばかり强壯らしくそだつた、元氣に活潑に亂暴になつた。新鮮な空氣と廣々とした周圍

と生きた肴、畑からとりたての野菜、それらはほんとうに都會で得ることを得ない田園の賜である。だがまた子供のためによくない事も多かつた、それは田舎の生活そのものゝためではない、たゞ私の兩親の家での生活のためであつた。

もう三ヶ月で滿二歳になる私の子供に私はおかづとしては玉子か輕いお肴かじやがいもやおとうふ位のものしか與へないでゐた。お菓子はボールやビスケツト類で餡の入つたものや菓物は決してやらなかつた、夏になつてからは殊に女中にもやかましく云つてジヤムやクリームの入つたパンなぞはわざ〳〵子供にと貰つたのでも食べさせなかつた。「これはパパちやんやお母さんの食べるものよ」左樣云つてきかすと子供も强いて欲しがらないのであつた。(それは一度も食べたことがないので味を知らないからかもしれなかつた。)然し田舎の兩親の家へ來てはこの子供の食べ物についてのこれまでの私の苦心は　殘にも一掃されてしまつた。

「可哀想に、たべさせ　がいゝ」と母はいふ。まづ朝起きて顏を洗ふと私の兩親は飯臺に向つてゆつくりとお茶をのんだりお菓子を食べたりする習慣なのである。お飯まで三十分もさうして何か話しながら甘い物をたべたり梅干をしやぶつたりしてはお茶を飲む。で私の子供はその間やはりお菓子をたべつゞけることになる。(この場合にはいくら金魚を見ようと勸めても承知しない)で小さな胃袋はお菓子のために一杯になつて、御飯までは入らないことになる。折角口へ入れてやつても皆

舌で押し出してしまふ。そのうちに大人の朝飯はすむ。子供はおもちやで遊ぶ。が一時間もたゝぬ中にまたお菓子といふ。私はやつてはならぬと思ふ。泣かしてもいゝと思ふ、でもやはり「やらぬのは可哀想」だといふのが私の母の心理である、母は云ふ、『子供には何でもふつき(十二分に)にしてけち／＼しないでくれ』と。仕方がないのでまたやることになる。かうしてお晝までに幾度となくお菓子やお砂糖湯を與へるのでお晝飯になるとまた子供は一向御飯をたべようとしない。午後も同じことがくり返す　かり。

　それから田舍にゐる間に最も不愉快なことは貧富の觀念の強いことであつた。まだ五つ位の子供が知らぬ人を見ると「お前の家は大臺か」と訊く。子供同志の間でもものもちといはれる家の子は威張つてゐる、貧しい百姓屋の子供はまたその傲慢な子供達に媚びへつらつてゐる。『お前ん家にやこんな菓子無かろ』よくこんな言葉を子供の間にきく。私はそれがたまらなくいやであつた。で子供に『誰でも呼びすてにするものぢやありません、誰々ちやんといふのですよ』といひきかせた。子供はその通りちやんをつけて誰でもよんだ、ところが私の母はちやんなぞつけないでいゝといふのである——私は子供を自分の手元からはなして兩親の家で生ひ立たせる氣にはとてもなりきれなかつた。田舍の自然は子供のために欲しい、けれども田舍に住むあの人々から大じな子供の心に影響されたくない、さう衷心から願ふのだつた。

新刊

◎婦人解放よりの解放

生田長江著
東京 表現社發行

本書は「婦人解放よりの解放」と「戀愛と結婚との關係を論ず」の二章から成る小冊子で、そして、「戀愛と結婚との關係を論ず」の中には、六ツの小題、則ち「家族主義より家庭主義への推移」「見合結婚の進化」「過渡期の結婚方法」「戀愛はつまらぬものか」「戀愛のなくなつた夫婦關係」「私の新貞操論の根據」がある。

「婦人解放よりの解放」に於ては此の題が示す如く、男女解放を云ふことは女性を中性化無性化することである。「婦人の生活を男子の生活と全然同様なものにしようとして作り出された妖怪を、中性化された婦人を無性的婦人を「新しい女」であるとしたならば、新しい女は私共の嫌ひなものである。極度にまで嫌ひなものである」と云ひ、「家族主義より家庭主義への推移」に於ては「歐米諸國が個人主義の社會であるのに對して我が日本が家族主義の社會であると云ふのは、むかうが小家族主義の社會であるのに對して、こちらが大家族主義の社會であると云ふのでなければならないが……併し、大家族的生活から小家族への推移は到る處に見えて來た。」と云はれ、要するに歐米の社會と日本の社會とは其の質が異つてゐるのではなく、進歩の度の違ひであるように云つて居られる。其の外、見合結婚の進化に付て、過渡期の結婚方法に付て、戀愛に付て夫婦關係に付て、貞操の根據に付いて、直截に適確に所謂かゆい處に手が届くように氣持ちよく書かれてある。

「足袋のあなを繕ふのは天下國家のほころびを繕ふのに比して決してつまらない仕事でない。」「遠慮なく女房の尻の下に敷かれてゐながら口先きで女を馬鹿にした様な口の利かたをしないでは……戀愛のために、いゝ加減犧牲を拂はせられてゐながら、戀愛はつまらない馬鹿々しい物のやうに云はないと、幅がきかないやうに思つて居……」など、本當に痛快な言葉が滿ちて居る。

文筆に全く無經驗であつた私が筆をとらうとした最初の動機は、所謂婦人解放の似而非論に對してゞあつて、以來八九年の間私は其の似而非論を攻撃して來たが、今や、我が文壇の驍將、本書著者によつて私の意見が裏書きされたことを私は衷心から喜んでゐる。

男女の差別に付て氏は次のやうに云つて居られる。

「これ迄女性陶汰は、男性を強く美しくした。所謂男性陶汰は、女性を強く美しくした。所謂兩性陶汰は、男性と女性との双方を強くし美しくした。そして、彼等が強くなり美しくなればなる程、彼等相互の形體上性質上差別を増大して來た。

これらの陶汰は今後と雖もやむべきでない。從つてこれらの差別の増大もまた 停止するところを知らないだらう。

「男女の差別が増大して行けば行く程二者の抱合は愈々水ももらさないものになつて行く、則ち、兩性は相遠ざかると共に相近づくのである。………離れ〳〵に生きられないものであることを知てつ來る」

海外便り

◉倫敦デーリーメール八月七日の紙上に寶石商保護同盟會の廣告が出てゐた。それは、十萬圓よりも少なくない價格の寶石が密輸入されたが。其の密輸入者を發見したものには八千圓の報酬をすると云ふのである。そして、其の寶玉は何處から來たかと云ふと、露國の過激派が掠奪した七百萬ポンド計りの寶石を世界の市場に出さうとした結果だと云ふことである。

◉有名な露國小說家ゴルキーは全露國の食物管理人に任命され、そして、其れに關する全權を與へられたと云ふことである。其の目的は、勿論、今、餓死しさうになつてゐる露國民を救ふことであつて、彼は近いうちに全歐の政府を訪問すると云ふてゐるとのことである。

◉ベルグアムの議會は八月三日、婦人が市長、市會議員、書記、收稅吏になり得る議案を、一回の討論もなく可決した。そして、既婚婦人がさう云ふ役を受ける前には、正式に結婚してゐることを證明する必要があることにした。併し、まだ、婦人が警察に入ることは許されてゐない。

交通に對する反動

交通に對する反動に就ては、社會心理學者タルデと社會學者ギデングスが最も精細に解剖し説明して居ります。次の一節は此の二學者の研究の結果でありﾏす。「性質の似通つた二人の人の交通の結果は、二人を益々同じような人間にする。此の反動を學術語で云ふならば同化作用である。あらゆる自然界の力と同じように、人の心も最大なる抵抗力のある處を避けて、抵抗力が最少なる處へ向つて進んで行く。或ることを爲そうとして、そして、それが始めてのことであるならば、人は必ず或るモデルに從つて行動をとる。最も創意に富む人でも矢張り或るモデルに從ふものである。であるから、暗示と模倣は此の同化作用を起すに付いては、大きな役目を持つて活躍する。もし、戯場で遊んで居る子供のうちの一人が水を呑みに立つならば、其處にゐ

る大抵の子供が水を呑みたくなる。其處で、人格の必要と云ふことが起つて來る。人格が大きく、人の注意を引けば引く程それだけ人は他人のモデルとなることが出來るのである。他人の内部に睡つてゐる力をよび起すことが出來るのである。で、同情と云ふのは其れとは少しかたちが違ふが、矢張り、同じものである。であるから、或る經驗を一人の友に話すとする。其の友が話す人と同じ性質であり、且つ、話す人と同じ位置に自分を置くことが出來れば出來る程、それだけ多く話す人と同じ感情を持つことが出來、それだけ多く同情することが出來る。』と。

で、ジャストロー博士は、其れに付いて『であるから、社會化と云ふことは同情的感情に其の根をもつ。』

と云ひ、ペッツ博士は

『人間關係の深い意義の基礎は共通な經驗を認めることである。我々は我々と同じ經驗をもつた人からのみ了解と同情を得ることが出來る。』

と云つてゐます。

交通が同情を生んだ時に其の交通は完全でありますけれども、二人の人が、同じ経験をしても、もし、其の二人の人の情緒が異つてゐるならば其の二人の間には矢張り了解はありません。が、とにかく、同情は交通の結果であり、又、それから先きの交通の基礎になるものです。けれども、ロッス博士は申ます。

「交際は、決して完全に自分を赤裸々に爲し得るものでないと云ふことを我々は認めなければならない。なぜなら、人との對話は、幾分の我慢と云ふことと、人を喜ばせようとする氣持が附隨してゐる社會的行爲であるから。「言葉は考へをかくすために人間に與へられてある。」と云ふ眞理を信じない迄も、とにかく、我々の言葉は我々の心の、唯、一部分しか他人に傳へられないものであるから。………多くの人と交際しようとするならば、始めから和解的な精神をもつて接し、多少は多くの人の趣味に合ふような話をしなければならない。さうしないならば、忽ち、人の氣を惡くしたり、お互ひの惡口を云ふようになつたり、自然お互ひによけ合ふようになり、遂ひには交際が破壞されてしまう。で、先づ、これが通常であるとすれば、人は自分の胸に誰に

も云へない考へや計畫を秘めて置く方が用心深いことだと云ふことになる。そして誰をも嫌がらせない、誰にでも喜ばれるようなこと計りを自分の心の中から選り出して交際と云ふ社會的毛細管を通じて他人に發表することになる。』と。

同化作用には牽引力が必要であります。そして、同化作用を起す迄に人と人とを結び付けるものは感情です。此の感情の力は強いものであつて、そして、これは目にも見へず、氣も付かない間に働くのであるからして、從つて、其れに抵抗を引き起す餘地もありません。ですから、人と人との關係を普通の交通以上に進めるには此の感情の力だけで充分だと云はれてゐます。そして、書いたものを通しての交通よりも、むかの交通の方がより有效だと云はれてゐます。

今迄に話したのとは正反對の方法でも同化作用を起すことが出來ます。そして、これは強迫を用ひての同化作用であります。此の場合には二人の人のうちで強い方の人が自分自身の目的のために弱い方を征服してしまうのです。彼は腕力、命令、又は、脅迫によつて自分の意志を相手に押し付けます。併し、此の場合ひにも幾分の牽引力

で『ちやく馬馴らし』のうちで花婿のペトルシオは結婚式が濟むとすぐ、ちやく馬と云はれてゐた花嫁を馬に乘せて歸へらうとしました。けれども、花嫁が彼の云ふことをきかないので、彼は彼女をひつかゝへて馬の背の上に押へ付けたまゝ馬を走らせました。萬事其の手で彼は遂ひに彼女を自分に同化させてしまひました。

又、ほんの表面だけの同化作用でありますが、其れが其の時の事情で無理やりに行はれることがあります。かりに一人の人が非常にこみ合ふ群集の中へ這入り込んだとします。其の時には、彼の意志が何であれ、彼は群集に同化されてしまつて、群集の行く方向に矢張り押されて行かなければなりません。又は、遠足に出た多人數のうちに、道を左しようか右しようかと云ふ意見が二つになることがあります。此の場合には勿論多數決と云ふことになります。すると、少數の數の意見は無視されて多數に同化されてしまうと云ふことになります。

併し、交通が同化作用を起すに至らない場合もあります。もし、二人の人が其の性

ゆることも出來ます。けれども、後者の方は其處に人間が居ないのであるから誤解があつても其れを解く機會もないし、又、不注意な人には意味が徹底しないこともありませう。併し、後者の利益は前者の場合の突發的であるに反して、前以て準備するから傳へられる事柄が正確であると云ふことです。これに付いてワラスは云つて居ます。

『我々は人の話を聞いたり、人に話してゐたりする時よりも、一人靜かに書齋の中で讀書したり、事務所の机で仕事をして居る時の方が團結による智力上の仕事はよく出來るものである。

『此の思想組織の新しいかたちは人と人との直接な接觸を缺いてゐるから「間接關係」と呼ぶのが便利である。昔風の人と人とが接觸しての思想組織、たとへば委員會、組合、會と云ふやうなものは今日に於ても矢張り存在してゐるが、それが存在する一部の理由は習慣からで、もう一部の理由は、我々の心理の性質は面談することによつて進化すると云ふことである。つまり、文字によつての間接な交渉では我々の全部の力が使用されない、從つて、或る必要な點が不滿足なまゝで殘つてゐると云ふ事實があ

るからである。

『此の昔風の思想組織のうちで、最も單純な最も古いかたちは少數の人が集まつて熱心に或る問題を論じた場合である。そして、其の形式はプラトーの對話のうちに最も發達した點が現れてゐる。

『友達同志が會合した時に最も價値あるものは、智力上の刺戟としてゞすら、粗雜な言葉では到底云ひ現はすことの出來ない程余まりに微妙なるものゝうちにある。で、現代の思想家が新刊物を批評したり、人の實驗したものを證明して見るために一人机に向つて居る時にはさう云ふ微妙な働き現れない。則ち、話しながら微笑するとか言葉とはならない親切な態度などがそれである。又、話しながら何かを考へ出そうとする努力や、其の努力に成功した時の愉快さや、折々の人には氣の付かない程の無言のうちに云ふに云はれない價値がある。』と。

それ等の方法を應用して、如何にして生徒によりよく覺へさせるかを知ることは敎師のために有益でゐります。智力を計る新しい心理學が、後には、其の仕事をする科

う云ふ場合には兩方が相手の心持を知らうとする强烈な慾望を持ちます。つまり、相手の心との鋭い交通を求めて居るのです。けれども、求めて居る其の交通の中には反感が流れてゐます。なぜなら、一方を喜ばすものは、必ず、片方の憂へでありますから。そして、こう云ふ位置に居る人は往々第三者に對しても反感を起す場合がありま す。彼の心のうちからは同情と云ふ分子は、皆、追ひ出されて、爭ひの氣分が一杯になります。そして、其の兩方のうちの一方の成功に關する交通が片方の心に傳つて行つた時には、彼の心は全く同化の反對の方に向つて行きます。

けれども、又、反感をもつて始まつた關係が同情的關係となり、同情から始まつた關係が反感で終ると云ふこともあります。もし、又、始めもつて居た反感が非常に强くないならば適當な場合に其れを調節すると云ふことも出來ますし、或ひは、交通を多方面に徐々と延長して行くことによつて或る同情が現れて遂ひには同情的關係になることがあります。で、私共が注意しなければならない點は私共が共通に持つてゐる人道的氣分を基礎とすれば同情を起し、其處から同化作用が生れると云ふことであり

ます。人と人との交通は少なくとも其處を目的としなければならない。勿論、其れには相當の時間と、それから、適當な機會も必要であることを承知してゐなければなりません。

相反する感情をもつてゐる二人は、なぜ、相反するかと云ふことをよく考へ、同じ人間であると云ふことを考へ、そして意見の相違を正し、共通點を發見して共同的の行動に出づべきであります。其處に、大抵は同情が生れて來るものであります。

尤も、同情しようとする如何なる努力も全然無駄になつてしまう程、强い反感が存在する場合もあります。一家庭のうちにも、學校のうちにも、さう云ふ反感があるものだと云ふことを敎師は承知してゐなければならないでせう。

或る學校の傍に畑を持つてゐた農夫と、其の學校の學生との間に爭ひが起つたことがあります。學生は、誤まつて畑の中へ落ちた毬を取りに畑へ這入る權利を主張するし、農夫は畑を荒されると云ふ理由で盛んに抗議を申ます。つまり、農夫は學生が不注意であると云つて怒るし、學生は農夫が意地惡だと云つて農夫を責めのるです。遂

ひに、農夫が學校を訪ふて、敎師達にも爭ひの原因を聞いて貰つて、ゆつくり話し合つた結果双方の氣持ちが了解出來て、其の後は學生と農夫の間が圓満であつたと云ふ話でありますが、これは、反感で始まつた交通が、其の交通をより深くすることによつて同情的關係に變つて行つた一例であります。

編輯の後

原稿を全部印刷所へ送つてから鎌倉におゐでになるお人を御訪ねするために汽車に乗りました。連日の不規則な冷氣に稲の出來はどうかと氣遣つてゐたのでありますが、秋雨（あきさめ）けぶる中にシツトりと美しい穂を重そうにたれてゐる様を見て、先づ、無事に實つて呉れたと思つて安心致しました。鐵道の線路に沿ふて其の稲田の中に一筋の街道が流れてゐます。いくつかの荷車が行交ふてゐます。そして、町の方から來る車は肥桶を積んでゐるのだし、農家の方からの車には、紅、白、樺色などの入り交つた花や、又は、野菜などが山のやうに積んであるのでありました。菅笠に顔をまけて、紺の股引に包んだ足をゆつたり〳〵運んでゐる姿は實に神々しいと思ひもしました。農業國に生れた農夫達に幸ひあれ、農家の婦人達自重せよ、と思はずも心の中で叫びました。

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと
■郵券代用は五厘切手にて一割増
■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十年九月二十三日印刷納本
大正十年十月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

山田わか著譯書目

- 社會に額づく女 （定價二圓三十錢） 東京麴町區平河町六ノ一 耕文堂發行
- 女（マグダレン・マルクス原著） （定價二圓八十錢） 東京麴町區平河町六ノ一 耕文堂發行
- 若き愛と智の眼覺 （定價一圓二十錢） 東京牛込區新小川町三ノ十九 日本社
- 婦人の解放と性的教育 （定價七十錢） 本郷區湯島天神町一ノ八二 東洋出版社發行
- 再版 戀愛の社會的意義 （定價二圓） 東京市四谷區南伊賀町四一 婦人と新社會社
- 女・人・母 （定價一圓七十五錢） 東京本郷春木町二丁目 森江書店發行
- 八時間勞働の理論と實際（ウイバー女史原書） （定價四十錢） 本郷區湯島天神町一ノ八二 東洋出版社發行
- 愛と生活と （定價一圓三十錢） 東京神田裏神保町六番地 三德社發行
- 賣笑婦の研究（マイナー女史原書） （定價一圓六十五錢） 東京麴町區飯田町一ノ二 天佑社發行

□山田わか著

□四六特三百五十頁　定價金貳圓□
□總クロース美本　送料金拾五錢□

戀愛の社會的意義

再版

目次大要

富を造る事と幸福を造る事――戀愛と結婚――戀愛に對する男子の態度――菊榮氏の『女も進んで求婚すべし』に附て――結婚道德の一ツ――墮胎に附て――戀愛の自由と本能――女子敎育の基調――產業機關は臺所のため――戀愛と藝術――家庭を追はれた產業婦人――婦人運動の歸着點――メレデスの靈肉觀――母と社會政革――婦人の智的生活――禽獸の親子關係　【其他十七問題】

東京市四谷區南伊賀町四十一番地

振替東京五三六八八

發賣所　婦人と新社會社



三越の十月

- 寄裂見切反物賣出し（一日より）
- 七五三祝着陳列（同）
- 雜貨新製品陳列會（同）
- 三宅克巳氏滯歐作畫展覽會（二日より）
- 自由畫壇作畫展覽會（十日より）
- 家具新製品陳列會（同）
- 友禪モスリン陳列（同）
- 婚禮用染模樣陳列（十五日より）
- 子供洋服陳列會（廿一日より）
- 彩壺會主催現代陶器展覽會（廿二日より）
- 御召小紋陳列會（廿三日より）

東京市 三越呉服店 駿河町

三越の定休日・十月十日・十二月二十五日